日　新　聞　【新聞定価1カ月3,925円(本体3,738円)】1部売り(消費税込み)朝刊130円 夕刊50円　〔第3種郵便物認可〕

神戸の主婦 1カ月で署名1万人超

虐待防止 市民立つ

子どもたちの命が理不尽に奪われる児童虐待死事件。防止を願う草の根の取り組みが各地で広がっている。神戸市では1人の主婦が署名活動を開始。協力の輪は九州や関東にも広がり、署名は既に1万人を超えている。今夏には、国会に請願する予定だ。また東京では、大学生たちが子どもたちの声に耳を傾けようとアンケートを始めた。「じっとしてはいられない」。それが共通の思いだ。【堀江拓哉、写真も】

公園で遊ぶ親子に署名のお願いをする藤原八重子さん（中央）＝神戸市灘区で

東京の大学生ら ネットで子どもアンケ

行政体制強化 国会に請願へ

署名活動を始めたのは、神戸市灘区の主婦、藤原八重子さん(64)。今年3月、奈良県桜井市で起きた虐待のニュースに衝撃を受けた。当時5歳の男児が餓死し、両親が逮捕された事件。その後も虐待事件が相次いだ。藤原さんには昨年11月に孫が生まれたばかりだった。「これ以上、子どもが命を落とすのはつらい」。5月に入ってから、近くの公園などで署名を始めた。

藤原さんはこれまで市民運動を行ったことはなく、署名を呼び掛けるのも初めて。初めは恥ずかしかったが、サークル仲間や長崎県の親せき、東京都の知人にも声をかけると、署名を呼び掛ける協力者は約100人に広がった。子ども連れの主婦らに声をかけ、行政の体制強化などを求める。署名は開始後1カ月で約1万2000人にも上っている。藤原さんは「虐待をなくしたいという親の強い願いを感じる」と話す。

東京都江戸川区では、地元の大学生たちと同区の市民団体「江戸川子どもおんぶず」（大河内秀人代表）が動き始めた。きっかけは、今年1月に当時7歳の小学1年男子が虐待死し、両親が逮捕された事件だ。男子は周囲に虐待を打ち明けたのに、命は救えなかった。大学生たちは「死を無駄にしてはいけない。子どもの声が尊重される社会を目指したい」と、5月から、18歳以下を対象にウェブページ（http://www.edogawa-campaign.cocolog-nifty.com/blog）でアンケートを始めた。

質問項目は、虐待を受けているような子がいたら何ができるか▽幸せなまちにするにはどうしたらいいか――など。「子どもならではの思いを虐待のないまちづくりに役立てたい」と夏に報告会で発表する。

NEWSプラス 奈良と東京の虐待死事件

今年3月に当時5歳の男児が餓死した奈良県桜井市の虐待死事件では、昨年9月ごろに衰弱していた男児に対し適切な治療を受けさせず、わずかな飲食物を与えるだけで放置し死亡させたとして両親が保護責任者遺棄致死罪で起訴された。男児は生後4カ月と10カ月健診は受けたが、その後の健診は未受診。市は電話と文書で受診を促しただけで家庭訪問はせず、早い段階で虐待を発見できなかった。事件後、市は未受診の子がいる家庭への訪問を始めている。

早期に発見できず

東京都江戸川区の事件では、小学1年の男子（当時7歳）が今年1月に自宅アパートで暴行を受け死亡し、継父と母が傷害致死罪で起訴された。都児童福祉審議会の検証部会は中間報告で、昨年9月に担任が男子の顔のあざに気付き副校長らに報告したが、学校は注意して見ると決めただけで児童相談所に通告しなかったことを指摘。入院した医療機関でも虐待が見落とされたとした。男子本人から話を聞かなかったことなど関係機関の問題点も報告された。

鉄社員が「異臭がする」　目立った外傷はなかっ
と大阪府警曽根崎署に　た。ごみ袋の中には三
られ、預かり期間が過
ぎたため今月3日に口

大分で住宅全焼